

5) 植生分布図

地図の概要

植生には蒸散作用による気候緩和効果や、日射の遮蔽による表面温度上昇の抑制、大気汚染物質の吸着等のヒートアイランド現象を緩和する効果があり、植生分布図はヒートアイランド現象を緩和する地域資源としての植生分布を示す基礎的な図である。

地図作成の対象及び目的

植生分布図は熱環境を緩和する資源としての樹木や草地等の緑地の分布を示す図であり、このため主として第2階層で作成されるものである。

作成手順及び使用するデータ

地方公共団体の行っている地域ごとの土地現況調査結果や、環境省が実施している「緑の国勢調査」等のデータを用いて作成することができる。リモートセンシングデータから分析する方法も可能である。これらのデータの入手が困難な場合は土地利用図のデータを用いる。

地図の表現方法

高木 / 低木 / 草地といった植生の形態や広葉樹 / 針葉樹といった植生の種類からの区分、公園 / 水田 / 畑地といった用途による区分を組み合わせることで区分を設定し、区分毎に色分けされた分布図によって表現されるのが一般的である。

地図作成上の留意事項

蒸発潜熱分布図等の他の図の作成を行う場合は、必要となる物性値に応じて植生区分を設定する必要がある。

⑥ 地図の見方・利用方法等の説明資料

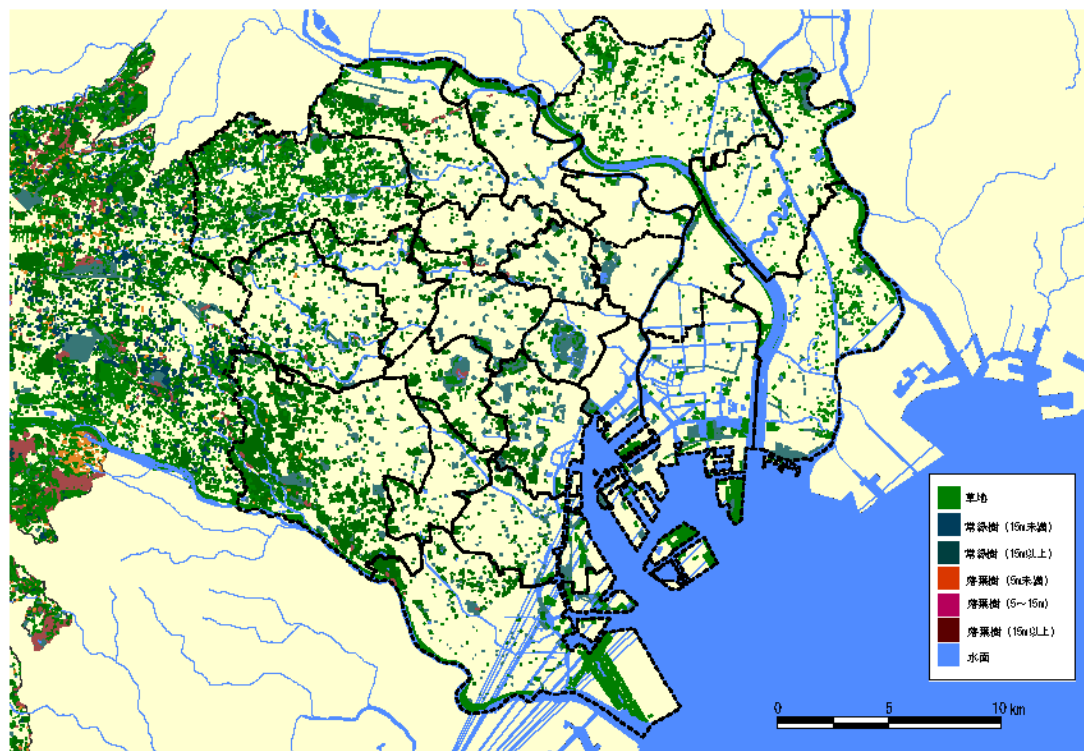


図 19 植生分布図

1. 図の基本情報	
1) 図のタイトル、目的	植生分布図 (目的：微気象緩和に貢献しうる植生の分布状況の把握)
2) 図のスケール	約 40km×約 30km
3) 図の作成年月	2003 年 3 月
2. 図の作成手順	
1) 図の使用データ	東京植生図第 9 系データ (1996 年)
2) 図の作成手順	東京植生図第 9 系データから樹木・草地・水面の分布状況を示す図を作成した。
3) 図の解像度	—
4) 作成上の留意点	—
3. 図の解説等	
1) 図の見方	植生の種類と水面の計 6 種類の分類により、植生の分布状況を示している。
2) 図の解説	都心には高木からなる大規模な緑地が点在しているが、その他の地域では植生としては草地が最も多い。